

ヤード適正化条例4月1日施行



議事進行に努める予算委員会 副委員長の西田三十五県議

2月県議会 予算委員会

佐倉市選出の西田三十五県議（3期）は市民の声に耳を傾けながら、県政改革に全力を上げています。2月県議会では予算委員会が質問に立ち、不法ヤードの解消、印旛沼に架かる舟戸大橋への歩道設置、世界陸上北京大会に備えて県内でキャンプするアメリカチームのサポートなどについて、県担当者に現状や取り組みを質しました。西田県議の質疑と県担当者の答弁を特集します。

不法ヤード解消へ 住民への周知重要

西田県議 ヤード適正化条例についてうかがう。千葉県警の調べによると、平成26年末時点で、県内で確認されている510カ所のヤードのうち、印旛地域が354カ所と県内の7割を占めており、中でも佐倉市と四街道市には、多くのヤードが確認されているとのことである。

ヤード適正化条例については、昨年12月議会において全会一致で可決成立し、いよいよ本年4月1日から施行される。

この条例では、ヤード運営者に対しては、届出や油の地下浸透防止措置を義務付けているが、土地所有者やヤード設置者に対しても、土地やヤードを貸したり、売ったりしようとする場合には、不法ヤードとして使用される恐れが無いかなどを確認すること、万一、貸している土地などが不法ヤードとして使用されていると思われるときは、関係機関に通報することが、努力義務として規定されている。

このため、不法ヤードの

解消に向けては、ヤード運営者のみならず、地域住民に対する条例の周知も重要であると考えているが、どのように周知していくのか。

環境生活部長 ヤード適正化条例については、県のホームページや、県民だよりへの掲載などにより県民への周知を図っているほか、

住民の問い合わせに
地域振興事務所対応

西田県議 この条例の目的には、県民の生活環境の保全上の支障の防止とともに、県民の平穏な生活の確保が掲げられている。

地域住民は、自分たちが住んでいる地域にあるヤードに対して、不法ヤードではないのかなどの不安を持つており、ヤード適正化条例の内容やヤード対策にどのような取り組みでいくのか知りたいと考えている住民も少なくない。

このようなヤードに関する問い合わせや相談などの身近な窓口となっているのは、県の出先機関である各地域振興事務所。そこでうかがうが、地域住民からの問い合わせに対しては、地域振興事務所でも適切に対応できるようにすべきと思うがどうか。

環境生活部長 地域振興事務所では、住民からの問い合わせへの対応や施設への立入りなど、条例に関する事務の一部を担うこととなります。各地域振興事務所に対し

各市町村に対しても住民への周知を依頼しており、佐倉市や四街道市などでは、今後、広報紙に掲載予定と聞いております。

現在、地域住民の方々に対するお知らせとしても活用できるパンフレットを作成中で、本年度中には配付したいと考えています。

西田三十五県議プロフィール

経歴

- 昭和39年10月 佐倉市生まれ
- 昭和63年 3月 拓殖大学 政経学部卒業
- 平成 3年 4月 佐倉市議会議員 初当選 (3期連続当選)
- 平成15年 4月 千葉県議会議員 初当選 (3期連続当選)

現職

- 県議会 予算委員会 副委員長
文教常任委員会 委員
- 自民党県連 広報本部 本部長
防衛問題対策議員連盟 幹事長
教育研究会議員連盟 幹事長
介護問題対策議員連盟 事務局長
- ちば自民党 青年局 相談役
- 政策集団 「夢の会」会長

要望 西田県議 ヤード適正化条例に基づく立ち入りに当たっては、不法ヤードの特性上、不測の事態が発生することも予想されることから、職員の安全を確保する観点からも県警と十分に連携して対応するよう要望する。

では、今後、事務処理に遺漏のないよう、条例の解釈や運用などについて徹底を図ってまいります。

いずれにしましても、地域振興事務所や市町村と十分に連携して、条例の適正な執行に努めてまいります。

市民の声を県政へ

西田三十五 県議事務所

〒285-0837 佐倉市王子台6-1-8

TEL 043-489-2312 FAX 043-489-2401

県政や佐倉市での身近なご相談、ご要望をお寄せ下さい。

※ヤードとは 周囲が鉄壁などで囲まれた作業場で、海外への輸送などを目的として、自動車などの解体、コンテナ詰めなどの作業のために使用していると認められる施設。

舟戸大橋から佐倉市側 延長160mに歩道整備

西田県議 舟戸大橋は、佐倉市と印西市の境にある印旛沼を渡る橋梁で、老朽化が進行している上に、歩道が未設置なことから、現在、県において、架け替え事業が行われている。

しかしながら、橋梁の佐倉市側については、歩道の未整備区間があることから、地元の方々は、歩行者が安心して通行できるよう、歩



歩道整備が望まれている舟戸大橋

道整備を強く望んでいる。

そこで、かがうが、県道千葉白井印西線舟戸大橋から佐倉市側の歩道整備について、今後、どのように取り組んでいくのか。

県土整備部長 舟戸大橋から佐倉市側の延長160メートルの歩道未整備区間につきましては、舟戸大橋の架け換え事業の進捗に合せ

て、地元のご協力を得ながら、整備を進めてまいります。

要望 西田県議 舟戸大橋は、大型貨物車の通行規制となっており、新橋となっても通行規制は継続されると認識しているの

で、大型貨物車の誘導について、適切に案内を行うよう要望します。

また、この区間に続く佐

放課後児童クラブ

県内に975クラブ

平成26年
5月現在

西田県議 放課後児童クラブについて、放課後児童クラブの設置状況はどうか。

健康福祉部長 平成26年5月1日現在の放課後児童クラブの施設数及び登録児童数の状況ですが、政令市・中核市を含む県全体で、施設数975クラブ、登録児童は4万2060人であり、政令市・中核市を除く県所管の市町村では、718クラブ、登録児童は2万8210人となっています。

西田県議 県では、放課後児童クラブの整備にどう取り組んでいくのか。

健康福祉部長 県では、

倉市八幡台団地交差点については、交通量が多いものの、



2月県議会予算委員会
質問する西田三十五県議

右折レーンがなく、朝夕を中心に渋滞が発生している。

地元市と協力して交差点改良を検討するよう要望する。

市町村等が行う放課後児童クラブの創設や改築等の経費の一部に対し助成してお

り、今年度は38クラブの整備が行われ、1198人の定員増を見込んでいます。

来年度は、62

クラブの整備に
対し助成を行い、
2256人の定
員増を図ること
としており、そ
のための経費、
約2億7千8百
万円を予算案に
計上しています。

西田県議 放
課後児童クラブ
の質の向上に向
けて、指導員の
研修も重要と思
うが、指導員の

研修は今後どう行われるのか。

健康福祉部長 放課後児童クラブの指導員は、来年度から県が行う研修を受講することにより「放課後児童支援員」として認定され、クラブでの保育にあたるこ

とされています。

県内には、現在、約4600人の指導員がおりますが、認定のための研修の受講は、今後5年間で行うこととされており、来年度の研修は約900人を対象に実施する予定です。

プレミアム付商品券

市町村の創意工夫重要

西田県議 地域消費喚起型事業について、かがう。プレミアム付商品券の実施にあたっては、創意工夫が重要と思うがどうか。

知事 プレミアム付商品券の発行により、低迷する個人消費が各地域で喚起され、とともに、地元の中小企業にも効果が及ぶことにより、県内全域で景気の好循環を誘導していくことが重要です。

このため、地元の中小事業者でのみ使える専用券の設定や、取扱店の中に、地元経済にとって重要な産業となる業種を加えるなど、地域経済の実情に応じて、それぞれの市町村が創意工夫を発揮することが重要と考えています。

西田県議 プレミアム付商品券の実施主体である市町村での創意工夫の事例として、どのようなものがあるのか。

知事 現時点では検討段階ですが、子育て世帯に対する割引販売や子どもの習い事などに使える商品券、

取扱店をリフォーム業や農産物の直売店などにも拡大するといった工夫をしている市町村があると聞いています。

また、県と連携したプレミアム付商品券とは別に、県の宿泊旅行券と連動して、独自の宿泊観光客向けの商品券などの検討を進めている市町村もあるとかがついています。

スクールカウンセラー
配置高校10校増

西田県議 スクールカウンセラーを県立高等学校70校から10校増の80校に配置するところがあるが、その理由は何か。

教育長 スクールカウンセラーには、近隣の未配置校からの相談要請にも対応しているものが多く、今回、配置校を10校増やすことにより、スクールカウンセラーが1人当たり対応する学校を2校以下とすることができ、生徒と保護者等の相談により対応しやすい体制とすることが可能となります。

県内キャンプの世界陸上アメリカチーム

ボランティアに高校生

西田県議 世界陸上北京大会にかかるキャンプ誘致についてだが、今後、周辺の市及び大学とはどのように連携していくのか。

総合企画部長 キャンプを成功させるためには、選手たちが安心して快適に練習できる環境を整える必要

があります。

このため、アメリカチームの要望を十分に聞きながら、施設の整備やトレーニングサポート、警備等による安全安心の確保など、県・市・大学が連携して取り組んでまいります。

西田県議 地元の中学生

や高校生をボランティアとして積極的に参加させてはどうか。

総合企画部長 成田市及び佐倉市では、地元高校生等を練習会場のボランティアとして、積極的に起用する方針と聞いております。

世界トップ選手の高い技